

教職員の皆様へ

教育センターだより【7号】

平成30年9月10日 発行



518-0485

三重県名張市百合が丘西5番町25番地

事務室・教育よろず相談 1F

Tel 0595-64-8801 Fax 0595-64-8802

E-mail:kyouiku-ce@city.nabari.mie.jp

minakuru01@nabari-mie.ed.jp

適応指導教室(さくら教室) 2F

Tel 0595-63-7830 Fax 0595-63-7830

E-mail:sakura@nabari-mie.ed.jp

学校ボランティア室 1F

Tel 0595-64-8864 Fax 0595-64-8802

ホームページ <http://www.nabari-mie.ed.jp/minakuru/>

夏の研修を活かし、実りある2学期に

教育センターでは、夏季休業中に教育講演会を含む19講座の研修を開催し、1204人の参加がありました。(のべ人数、昨年度は16講座1203人)今年度は新学習指導要領における「主体的・対話的な深い学び」についての授業づくりを中心に、教科・領域の分野での研修を受けていただくことができました。また、書写や図工・美術、体育実技など、2学期からすぐに役立つ実技分野の研修も多数ありました。ほぼすべての研修講座をDVD記録して貸出可能としています。この夏の研修で学んだことを活かして、先生達にとっても、子ども達にとっても、実りある2学期となることを期待しています。

「教育講演会」 8月17日(金)

講師：高木 展郎(横浜国立大学名誉教授)

新学習指導要領への移行に向けて授業改善やカリキュラムマネジメントについて具体的に



お話しいただき、資料もご提示いただきました。各校で、じっくりと取り組みを進めてください。

「算数」 7月27日(金)

講師：池田 敏和(横浜国立大学教授)

子どもが主体的に学ぶ授業のためには、教師の「めあて」が子ども自身の疑問になることが重要です。今までの経験から答えを探す習慣を身につけさせたいという内容でした。アンケートにも、とてもわかりやすく楽しい講座でしたという意見を多くいただきました。

「国語」 8月2日(木)

講師：桂 聖(筑波大学附属小学校教諭)

3年連続で開設した講座ですが、多くの先生方から、「わかりやすい」と評判でした。各発達段階に応じた発問の工夫を、実際の教材を使ってわかりやすく説明していただきました。「教材にしかけをつくる重要性を学んだ」という感想が多数ありました。

「道徳教育」 8月7日(火)

講師：島 恒生(畿央大学教育学部教授)

「特別の教科 道徳」の進め方について、国語の読解と道徳の授業の違いや評価についてなど、終始テンポよくわかりやすい説明をしていただきました。道徳教育はねらいや発問を学年や学校で共有し、チームとなって取り組むことの大切さを学ばせていただきました。

「小学校外国語活動・外国語科・英語教育」 8月10日(金)

講師：太田 洋(東京家政大学教授)

英語の授業での「やりとり」について、ペアワークを用いて実際に体験しながら、ポイントを教えていただきました。楽しく笑いの多い研修の中にも太田先生の鋭い指摘に納得させられることが多くありました。子どもの英語のつぶやきに対し、反応を返す手法を学べた講座でした。



「なばり学 フィールドワーク」 8月27日(月)

講師：谷戸 実(地域学校協働本部チーフコーディネーター)

門田 了三(文化生涯学習室)

藤本 佐利(社会同和教育指導員)

ふるさと学習「なばり学」で扱う内容について現地を見学し、今後の実践に役立てるため、市内フィールドワークをおこないました。

午前中に多くの名所を巡る気忙しい活動となりましたが、「名張藤堂家邸」「郷土資料館」「夏見廃寺」で門田さんからお話を伺い、「一ノ井児童館」では藤本さんをはじめ3人の職員から人権学習についての思いを聞かせていただきました。また、「株式会社タカキタ」では未来を担う人



株式会社タカキタにて

材づくりを託されました。車内では谷戸先生から「新田用水」や「美旗古墳群」「観阿弥創座の地」についてお話をいただきました。参加された先生方も前向きで「今度は滝にも行ってみたい」という意見もありました。



郷土資料館の説明



夏見廃寺の見学



ぼーちゃんとの出会い

「特別支援教育」 8月24日(金)

講師：藤岡 玉樹(いなべ市教育委員会)

小中一貫教育推進室)

片山 昭子(いなべ市立山郷小学校)

LD等通級指導教室教諭)

特別支援教育で有名な山郷小学校の取組を手がけた藤岡さんと、現在の取組を「秘伝のタレ」と称して紹介いただいた片山教諭のお話は、これまでもこれからも取り組んでいく根幹に関わる内容だったように思います。また、学力調査やQ-Uのデータを分析し、教職員全員で子どもの抱える課題を共通認識して、チームで取り組みを進めること、教室掲示や授業規律の具体的な配慮など、2学期からすぐに役に立つようなお話をさせていただきました。

「ちょっとホツとの会」 8月24日(金)

講師：森川 泉(臨床心理士)

不登校をどのように考えるか、子どもの心のエネルギーがたまるような学校の関わり方、家庭訪問の仕方など、子どもを理解する方法とともに、2学期から実践できる具体的な方法まで幅広く教えていただきました。

また、後半は実際に悩んだり、困ったりしている事例を参加者の方に書いていただき、森川先生から臨床心理の観点でアドバイスをいただく時間も設けました。それぞれの質問に具体的に答えていただき、学校の実態や困っていることを共有することができ、よい学びの機会となりました。



「小中一貫教育」 8月21日(火)

講師：平塚 晴彦(いなべ市教育委員会学校教育課課長補佐兼指導主事)

杉山 禎暢(いなべ市立治田小学校教諭・小中一貫教育コーディネーター)

西塚 正博(いなべ市立員井中学校教諭・小中一貫教育コーディネーター)



いなべ市の小中一貫教育に取り組まれている3名の先生から、トークセッション形式で講演をしていただきました。教育委員会、小学校教諭、中学校教諭のそれぞれの立場から、取り組みを進める中で感じた悩みや課題を率直に出し合っていたいただき、今後の名張市の推進に役立つ講座となりました。

「週末教育事業体験」 7月30日(月)

講師：藤岡 正則(教育専門員)

吉住 昌三(教育専門員)

教育センター主催の週末教育授業について今回は「トリックアート」「紫キャベツの天然指示薬」「電気モーター」「キツツキ工作」「プログラミン」「ロイロノート」について実際に体験しながら学ぶことができました。

「ふるさと学習『なばり学』」 7月26日(木)

講師：H29年度プロジェクト研究員

昨年度取り組んだプロジェクト研究「自分のふるさとを語れる子どもを育てる」について、研究員の山本教諭(赤目中)、中西教諭(梅小)青木教諭(桔南小)が発表をおこない、前田教頭(梅小)が「まず先生方が名張の方に出会ってください」と発表をまとめてくれました。

「書写」 8月23日(木)

講師：福村 俊夫(美旗小学校校長)

岩森 進(美旗小学校教諭)

書写の授業に向けて、指導のポイントや学び合いの方法、左利きの子どもへの指導など、詳しく教えていただきました。参加された先生方は実際に筆を持ち2学期に取り組む文字の書写に挑戦し、福村校長に朱墨で添削してもらい、指導のコツを学びました。また、大きな筆を使い大きな文字を自由に書く体験もさせていただき、書道本来の字を書く楽しさに触れることもできました。「普段、自分の書いた字を添削していただく機会がないので実技があつてよかったです」と好評でした。



「体育実技講習会」 8月9日(木)

講師：山本 敏之(鈴鹿市立箕田小学校教頭)



県教育委員会の保健体育科で勤務されていた山本教頭をお迎えして、桔梗が丘小学校の体育館をお借りし「器械運動における子ども達に経験させたい動きづくり」という題目で実技講習をおこないました。

先生方は実際に体を動かしながら指導のポイントを教わり、場の設定や教具の工夫について学ぶことができました。運動の苦手な子どもをつくらぬ授業をおこなうために、きめ細かい指導の工夫がたくさんありました。



「若手教員スキルアップ」 8月3日(金)

講師：中林 則孝(津市立立成小学校講師)

定年退職後、「初任者研修指導員」として今年で7年目。22人の初任者を受け持った経験から、算数の教科書を使って教材研究のやり方を教えていただきました。教科書をうまく利用した授業ができるように、しっかり読み込むことの大切さを教わりました。他の先生にも伝えたいという感想がありました。

「理科」 8月20日(月)

講師：後藤 太郎(三重大学教育学部教授)

瀬川 和之(桔梗が丘小学校指導教諭)

松井伊都子(北中学校教諭)

実際の実験を通して、理科の授業ですぐにでも使える情報や知識を得ることができた講座でした。教師自身の疑問を活かし、子ども目線で発問を考え、互いが「なるほど」と終われる授業展開をみんなで考えていく内容でした。

「図工・美術」 7月30日(月)

講師：竹田 進(箕曲小学校教諭)

ペーパークラフトや段ボールの切り絵、デザイン画など様々な実技を通して、ものづくりの楽しさや喜びを体験することができました。また、これまでの取組を紹介していただき、指導のポイントについてもお話しいただきました。



「授業づくり・学級づくり」 7月31日(火)

講師：土作 彰(広陵町立広陵東小学校教諭)

科学的な実験を使ったミニネタから講座が始まり、子どもを引きつける技をたくさん紹介していただきました。また、子ども達をつなげる手法や課題のある子どもへの対応方法など、会場の先生方から出された質問に答えながら、「むく、かく、うなづく」を大切にしたい学級づくりのヒントをいただくことができました。

「ばりっ子わくわくキャンプ」 8月20日(月)、21日(火)

場所：国立曽爾青少年自然の家

特別な支援を必要とする子ども達が、5年生におこなう曽爾の宿泊学習に向け、事前学習として取り組む「ばりっ子わくわくキャンプ」。今年は9人の参加があり、ボランティアスタッフとセンター職員と一緒に参加しました。

1日目は、山登りと館内オリエンテーション、カプラ遊びとキャンドルファイヤーをおこない、2日目は焼きそばと棒パン作りに取り組みました。2日間の活動を終える頃には、成長した子どもたちの姿を見ることができました。



「幼児教育」 8月27日(月)

講師：服部 敬子(京都府立大学教授)

子どもの発達の段階をわかりやすく説明していただいたことで、発達段階に応じた子どもへの関わり方を振り返る機会となり、乳幼児期の育ちが確かに学齢期につながることを学ぶことができる講座でした。

今年度おこなわれた研修講座の様子は、DVD視聴ができます。教育センターにて貸出することもできますので、お声がけください。
※「国語」「幼児教育」「市内フィールドワーク」「ばりっ子わくわくキャンプ」は除きます。